

ボランティア論			単位数	履修方法	配当学年
			2単位	R or SR	1年以上
科目コード	AB1002	担当教員	小野 芳秀		



■科目の内容

ボランティアが地域社会に果たす役割、また地域社会から寄せられる期待は、年々大きくなっています。世間一般にいわれているボランティアとは、どのようなものなのでしょうか。また、なぜ地域社会ではボランティアが必要とされるのでしょうか。ボランティアの基本的理念、またボランティア活動の具体的事例や活動の現場で今どのようなことが問題になっているのか理解を深めましょう。

本科目のレポートの2単位めの課題は、担当教員が課題を提示する「出題方式」(2-1)、または学習者が関心のあるテーマを自由に課題として設定する「選択方式」(2-2)のいずれかを選択してください。

■到達目標

- 1) ボランティア活動の定義について説明できる。
- 2) ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。
- 3) 地域社会におけるボランティア活動の実践者あるいは推進者として行動するための知識を理解し説明することができる。
- 4) ボランティア活動に関わる制度およびその活用法について説明できる。

■教科書

柴田謙治・原田正樹・名賀亨編『ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ』みらい、2010年
(最近の教科書変更時期) 2010年8月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ボランティアとは何か (第1章)	ボランティアの性格、目的、関連する思想について理解する。 キーワード：自発性、ボランティアリズム、利他主義、互酬性	教科書 p.1～13をよく読み、ボランティアの性格、関連する思想について理解を深める。
2	ボランティア活動の現状と課題 (第2章)	ボランティア活動の現状、課題と動向について理解する。 キーワード：特定非営利活動促進法(NPO法)、地縁型組織、テーマ型組織、CSR(企業の社会的責任)	教科書 p.14～27をよく読み、内容を理解する。なお教科書 p.17「表2-3 NPO法人の活動分野」は現在20分野となっている。どの分野が追加されているが自身で調べ確認しておくこと。また認定NPO法人制度についても調べておくこと。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	ボランティアと現代社会 (第3章)	インフォーマルサービスの担い手としてのボランティアの意義と価値について理解する。 キーワード：インフォーマルサービス、福祉コミュニティ、QOL、社会福祉協議会、ボランティアセクター	教科書 p.28～50をよく読み、内容を理解する。教科書 p.43のキーワードについて意味をおさえておくこと。
4	日本におけるボランティアの普及・推進の歩み (第4章)	日本におけるボランティアの普及・推進の歩みについて理解する。 キーワード：COS、セツルメント運動	教科書 p.51～76をよく読み、内容を理解する。教科書 p.67～69のキーワードについて意味をおさえておくこと。
5	ボランティア活動に期待される社会的役割 (第5章)	学び・自己実現の装置としてのボランティア活動の意義、期待される社会的役割について理解する。 キーワード：ノーマライゼーション理念、ソーシャルアクション	教科書 p.77～91をよく読み、内容を理解する。教科書 p.89のキーワードについて意味をおさえておくこと。ボランティア活動が「地域福祉の担い手」にとどまらず、ボランティア自身の「自己実現＝生きがい」につながるとはどのような意味が自分なりに整理してみる。
6	地域社会のボランティア (第6章)	これからの社会に必要とされる地域社会のボランティアについて改めて理解する。 キーワード：ボランティアセンター、ソーシャルイン・クルージョン	教科書 p.92～106をよく読み、内容を理解する。教科書 p.104～105のキーワードについて意味をおさえておくこと。
7	環境とボランティア (第7章)	環境ボランティアの具体的活動について理解する。 キーワード：環境活動、環境カウンセラー	教科書 p.107～122をよく読み、内容を理解する。教科書 p.120～121のキーワードについて意味をおさえておくこと。
8	災害ボランティア (第8章)	災害ボランティアの実際、留意点について理解する。 キーワード：災害サイクル、自立のためのボランティア、災害ボランティアセンター	教科書 p.123～137をよく読み、内容を理解する。教科書 p.135～136のキーワードについて意味をおさえておくこと。また、「東日本大震災」等の大規模災害において、被災者の生活復興に関してどのようなことが課題となっているのか自身で調べておくこと。
9	国際ボランティア (第9章)	国際ボランティアの実際、留意点について理解する。 キーワード：NGO、シンパシー、エンパシー	教科書 p.138～160をよく読み、内容を理解する。教科書 p.157～158のキーワードについて意味をおさえておくこと。
10	ボランティア学習 (第10章)	ボランティア学習の実際、留意点について理解する。 キーワード：ボランティア学習、インフォーマル・エデュケーション	教科書 p.161～179をよく読み、内容を理解する。教科書 p.177のキーワードについて意味をおさえておくこと。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	ボランティア活動支援とボランティアコーディネーター (第11章)	ボランティアコーディネーター、ボランティアセンターの意義と役割について理解する。 キーワード：ボランティアコーディネーター、ボランティアセンター	教科書 p.180～198をよく読み、内容を理解する。教科書 p.196のキーワードについて意味をおさえておくこと。
12	ボランティア組織の運営 (第12章)	ボランティア組織の運営と人材育成について理解する。 キーワード：OJT、Off-JT、SD	教科書 p.199～213をよく読み、内容を理解する。教科書 p.211～212のキーワードについて意味をおさえておくこと。
13	ボランティアの可能性と展望 (第13章)	ボランティアの可能性と展望について理解する。 キーワード：ボランティアリズムの逆説	教科書 p.214～227をよく読み、内容を理解する。
14	先人から学ぶボランティア (終章)	日本社会の性質とボランティアに関する考察においてボランティアがどのように捉えられているのか理解する。 キーワード：主体性と互酬、双方向性	教科書 p.228～234をよく読み、内容を理解する。
15	学習者自身の考察 (第1～終章)	学習者自身でボランティアの意義と役割について考察する。 キーワード：自身にとってのボランティア	教科書の第1章から終章までの学習を踏まえ、自身にとってのボランティアの意義と社会的役割について考察してみる。

■レポート課題

1 単位め	<p>以下の1、2の両方の課題に解答してください。</p> <p>1：①「地域コミュニティ」、②「地球環境問題」、③「国際協力」、④「災害とボランティア」のいずれか一つのテーマについて、ボランティア活動の背景としてどのようなことが問題となっているのか説明しなさい。</p> <p>2：上記1で選択したテーマについて、具体的にどのような活動が考えられるか、あなたの自由な意見を述べなさい。</p> <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可</p>
2 単位め (いずれかを選択)	<p>2-1 (出題方式) ボランティアコーディネーターの役割と意義について説明し、ボランティア活動を推進するうえで具体的にどのような取り組み、あるいは仕組み(システム)作りが考えられるか、あなたの自由な意見を述べなさい。</p> <p>2-2 (選択方式) ボランティアに関する内容であなたにとって関心のあるテーマを一つ自由に選択し、そのことに対するあなたの自由な意見を述べなさい。</p>

■アドバイス

テキストは一通り目を通されることをお勧めします。各単位の課題ごとの、指定箇所をよく読んで理解を深め、キーワードを参考にしながら課題を整理しましょう。

2 単位めの課題をレポートに記載する際は、「2-1」または「2-2」の番号を明記してください。レポート学習が初めてという方は、「2-2」の「選択方式」から取り組んでみてください。

1 単位め アドバイス

1：テキストの第5～9章を参考に、①「地域コミュニティ」、②「地球環境問題」、③「国際協力」、④「災害とボランティア」のいずれか一つのテーマを選択し、どのようなことが問題となっているのか整理しましょう。

2：①～④のテーマにおける活動の具体例は、学習者自身の活動経験を問いません。日常生活の中であなたが必要と考える活動、またそれらの活動を支援するための仕組みとして考えられるもの等、あなたの自由な意見を述べてください。なお、1と2で選択したテーマが同一である必要はありません。

2 単位め アドバイス

2-1 (出題方式)

テキストの第11・12章を参考にボランティアコーディネーターの必要性や有用性について述べてください。また、地域におけるボランティア活動を活性化するための方策についてあなたの自由な意見を述べてください。実際の取り組み事例等の紹介でも構いませんが、その場合、現在抱えている課題や改善案についても述べてください。

2-2 (選択方式)

ボランティアについて関心のあるテーマを自由に選び、構成(図1)を参考にレポートを完成させてください。(例)は、あくまでもレポートの内容を具体的にイメージして頂くための参考例です。例示にとらわれることなく自由に作成してください。

①タイトル
②序論
③本論
④結論
(⑤参考文献)

図1：「2-2」課題のレポート構成

①タイトル→(例)「ボランティア組織の運営における個人負担を軽減させる方法について」等。

②序論→レポートで「何について書こうとするのか」を明らかにします。また、何故このテーマを選択したのか自身の動機や問題意識について述べてください。

(例)「ボランティア団体が特定の個人に負担を強いる形で運営されている場合、どのようにしたら個人の負担を軽減することができるのか、組織運営方法の改善策について考えてみたい」等の内容。

③本論→「序論」で提起したテーマについて具体的にどのようなことが課題になっているのか、それに対して調べた内容、具体的解決策や自身の考え等を自由に述べてください。

(例)「実際にどのようなことが問題となっているのか」、「調べた結果どのような解決策があるのか」、「課題に対して自身はどのような解決策を考えるのか」、「自身はどのようにその問題を考えるのか」等。

④結論→序論で述べたテーマの「答え」についてまとめてください。

(例)「以上、〇〇という課題に対して、～という解決策があることについて述べた」等の内容。

⑤参考文献→引用や参考にした文献・資料等があれば明記してください。表記方法の詳細については『学習の手引き』等を参考にしてください。「番号」、「著者名(編者名)」、「書名(論文名)」、「雑誌名・巻数」、「出版社」、「出版年次」、「引用ページ」(特に引用したページがなければ「出版年次」までの記載で可)の順。

(例) 1) 柴田謙治・原田正樹・名賀亨 編『ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ』
みらい, 2010年 p.78

課題テーマの例としては、「中高生の学校教育におけるボランティアの単位化の是非について」、「善意とボランティア活動について」、「自身のボランティアに対するイメージ」、「ボランティアに関する新聞記事から考えたこと」、「ボランティアの運営に関すること」、「ボランティアを受ける側からの視点」等、ボランティアに関係するテーマであればどのようなものでも構いません。

◆ 2 単位め選択問題のレポート内容を学習に関する研究データまたは教材として活用させていただくことにつきましてご理解とご協力をお願いいたします。なお、レポートの使用にご同意頂けない方は、レポートの1ページ目の余白にその旨を明記してください。レポートは上記の目的以外、個人が特定される形での使用はいたしません。なお、使用の諾否がレポートの評価に反映されることは一切ありません。

■ 科目修了試験 評価基準

試験問題に沿って自身の見解や適切な解答が記述されているかを問います。

教科書の内容を理解しているかどうかを評価の対象といたします。